

立命館大学北海道校友会 第1回 定例講演会

未来を生み出す、立命のきずな。

－ 「校友会活動ビジョン」より －

日時：2025年5月24日（土） 15:00～17:00

会場：ACU-A 1605会議室

（札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45）



プログラム

15:00 報告

「立命館大学校友会 北海道・東北ブロック

若手・中堅の交流活動について」

立命館大学北海道校友会役員会 吉本 泰一 幹事

15:15 講演Ⅰ

「自然災害から社会インフラを守る技術

～ B K C から北海道へのメッセージ ～」

立命館大理工学部環境都市工学科

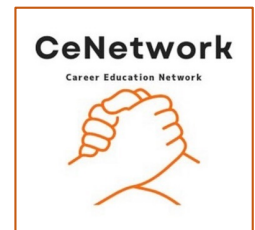
伊津野 和行 特任教授



16:15 講演Ⅱ

「高校生の未来を拓くキャリア教育

～ CeNetworkの実践から見えること ～」



立命館大学経済学部 4 回生 堂本 佳乃子 さん

立命館大学経済学部 4 回生 井上 美悠 さん

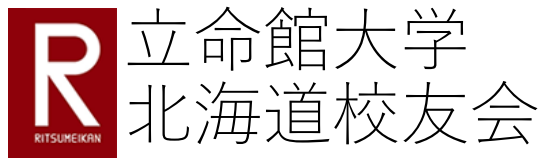
【お問合せ】

立命館大学北海道校友会役員会

E-mail : hokkaido@gst.ritsumei.ac.jp

<https://alumni.ritsumei.jp/hokkaido/>

講演概要集



2025年5月24日

北海道・東北ブロック 若手・中堅の交流活動について

担当：吉本泰一



1. 2024年6月30日
北海道・東北ブロック「若手の会」in 札幌
2. 2024年11月23日～24日
北海道・東北ブロック「若手・中堅交流会」 in 岩手

1. 2024年6月30日
北海道・東北ブロック「若手の会」in 札幌

- ・ 開催場所：サッポロビール園
- ・ 参加人数：12名（内、北海道校友会5名）
- ・ 成果報告：若手会員の参加促進に向けた取り組み等について情報交換をしました。今後の各校友会間のコミュニケーションがより円滑化されることが十分に期待できる結果となりました。



サッポロビール園でジンギスカン



2. 2024年11月23日～24日 北海道・東北ブロック「若手・中堅交流会」 in 岩手

- 開催場所：岩手県花巻市、宮古市、盛岡市
- 参加人数：11名（内、北海道校友会1名）
- 成果報告：会議にて各校友会の若手・中堅の参加状況等について情報共有しました。校友会そのものの認知度を高めることが若手・中堅の参加促進につながるとの意見が出ています。





北海道・東北ブロック 若手・中堅会議



浄土ヶ浜
を散策

まとめ

- 若手校友の参加促進には、継続的かつ地道な取り組みが不可欠
- 参加者はすぐに打ち解け、和やかな雰囲気
- 未参加の方にも、今後ぜひご参加いただきたい

自然災害から社会インフラを守る技術

～ BKC から北海道へのメッセージ ～

理工学部 特任教授
伊津野 和行

1. 大学における学び

今日は卒業生だけでなく入学前の方や父兄の方も参加予定とのことなので、大学での学びについて最初にお話しさせていただきます。卒業生の方は、ご自分の学生時代を思い出していただければと思います。

大学での学びの基本にあるのは「自由」です。ただし、何をしてもいいということではなく、他人を尊重したうえでの自由であることを忘れてはなりません。卒業するために必要な科目を履修することは求められますが、それ以外は自由に科目を選択し自由に時間を過ごすことができます。自由に学ぶ上で重要なのは本人の主体性です。何を学び、将来どんな自分を実現するのか、自分自身でしっかり考えることが大切です。

また、教員との関係が高校までとはかなり違います。担任の先生が何でも詳しく説明してくれる高校までとは違い、情報は自分で取りにいかねばなりません。また、高校まではすべてわかっている内容について先生が教えてくれますが、大学では結果を教員も知らない課題について学生と一緒に研究します。正解がわからない、あるいは正解があるかどうかもわからない問題を一緒に研究するのが、大学の卒業研究や大学院における研究の面白いところです。

2. 理学と工学

ここからは理工学部環境都市工学科の話を中心に紹介することにしますが、理工学部は滋賀県草津市のびわこ・くさつキャンパス（BKC）にあります。BKC が 1994 年に設置された当初は理工学部だけでしたが今は 6 学部（理工学部、生命科学部、薬学部、経済学部、スポーツ健康科学部、食マネジメント学部）に増えています。自然豊かな琵琶湖や近江の山々が近く、大阪や京都にも近いこともあり、全国的に人口減少が進む中で草津市は人口が増えています。

理工学部には理学と工学を学ぶ学科が 8 つあります。文理選択で大まかに理系か文系かを選ぶ人が多いと思いますが、理系といってもさまざまです。医学や薬学や農学の違いはわりと想像しやすいと思いますが、理学と工学は結構混同されやすいのではないのでしょうか。ざっくり言うと、理学は物事の理（ことわり）を追求する学問で、工学は技術を使って人の役に立つことを追求する学問です。もちろん境界はあいまいで、両方交わった分野もありますが、真理のためか、人のためかということが根本的な気持ちの違いかと思います。

3. 環境都市工学

工学にも機械工学や電気工学などたくさんの分野がありますが、ここでは私の専門分野についてお話しします。環境都市工学科は英語で Department of Civil and Environmental Engineering と言います。Environmental Engineering は環境工学で、人が健康に生きていくために必要な社会を築くための学問です。では、Civil Engineering とは何でしょうか。市民のための工学？

これは対義語を考えたほうがわかりやすいと思います。対義語は Military Engineering です。つまり、軍事目的ではない工学、人々の生活を支えるための工学が Civil Engineering なのです。以前は土木工学科という学科名でしたが、分野の広がりとともに全国的にも学科名を変える大学が増えました。立命館大学も 2004 年に土木工学科から都市システム工学科、2018 年に環境システム工学科と統合して環境都市工学科となりました。

学科の卒業生は、人々の生活を支える公務員、鉄道や高速道路などの交通機関、工事を手掛ける建設会社、設計や計画を考えるコンサルタント、電気やガスなどのエネルギー関連会社や環境関連企業といったところへ就職して活躍しています。女子学生の比率が工学の中では高く、立命館大学理工学部の中では建築都市デザイン学科に次いで 3 割近い女子学生が学んでいます。

扱う内容は幅広く、理系の中でもっとも文社系に近い分野と言われています。①橋などを扱う構造部門、②川や海を扱う水の部門、③地盤や斜面を扱う土の部門、④交通や都市計画を扱う計

画部門，⑤コンクリートなどを扱う材料部門，⑥安全かつ効率的な工事を考える施工部門，⑦水や大気の安全性を考える環境部門，といった分け方をする場合があります．私はこの中で第 1 部門に属する研究をしており，橋の地震防災が専門です．

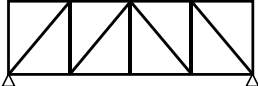
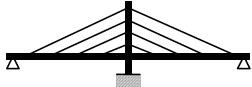
4. 社会インフラ

構造物を扱う学問としては，建築学の方が皆さんにはなじみ深いかもしれません．土木工学・環境都市工学で扱う構造物と，建築学で扱う構造物とは何が違うのでしょうか．簡単に言えば，中に人が住む構造物は建築で扱い，それ以外を土木・環境都市で扱います．ただし，この分類はあくまで日本での話で，外国における建築家は芸術家に近い存在として建築の意匠(形のデザイン)を考え，構造設計を **Civil Engineer** が担当することが多いようです．

土木・環境都市工学で扱う構造物は，ほとんどが社会基盤施設＝インフラストラクチャーです．日本語では社会基盤とか社会インフラとか呼ばれています．社会基盤というのは，人々の生活を支える上でなくてはならないものの総称で，具体的には道路，鉄道，上下水道，電気，ガス，通信などです．公共的な施設が多いのと，面的に広がっているものが多いのが特徴です．インフラストラクチャーの先駆者として有名なのはローマ帝国で，それから 2 千年以上の歴史があります．

社会インフラとして代表的な構造物は橋で，川や海峡に架かる橋や，高速道路や鉄道の高架橋など，いろいろな場所にあります．また，表 1 のようにいろいろな形のものがあります．ユーロ紙幣には金額によって違う形式の橋が描かれているので，機会があれば見てみてください．

表 1 橋の形式

形式名	概形	コメント
桁橋		短い橋でもっとも一般的
アーチ橋		ローマ時代によく作られた
トラス橋		鉄道橋に多い
ラーメン橋		ラーメンはドイツ語で骨組
斜張橋		直線的で近代的な橋
吊り橋		長い橋ならこの形式

なぜこのように種類が多いかというと，デザイン的な要素だけではなく，橋の規模によって力学的に適した形式があるからです．橋が長くなると何千トン，何万トンと重くなり，橋そのものの重さだけでも大きくたわんでしまうので，力学的に適切な形式で支える必要があります．橋は 50 年とか 100 年とか使い続けられるので，美しいものにしなければなりませんし，周辺の景観にもマッチした形式を選ぶ必要があります．税金を使って作るものなので，経済性も考えなければなりません．

最近では老朽化した社会インフラの問題がニュースで取り上げられることも多くなってきました．自治体に経済的な余裕がなくなっているという背景もあり，建設してから 50 年以上たった社会インフラが爆発的に増えてきていて対策が間に合わないという現状にあります．

5. 自然災害

日本は世界でも有数の自然災害多発国です。地震、洪水、台風、火山と、世界で発生する自然災害はほぼすべて発生します。これほど自然災害が多い国は珍しく、自然災害のデパートとまで言われることがあります。ところで自然災害の定義は国や時代によって違うというのはご存知でしょうか。一般的な定義は、異常な自然現象によって人間の社会生活や人命の受ける被害なのですが、どのような損害を国や社会が保障するのかということによって定義が微妙に違ってきます。ちなみに、昨年世界でたくさんの死者が出た自然災害は表 2 のようになっています。皆さんがご存じない自然災害も多いのではないのでしょうか。

表 2 2024 年に死者が多かった自然災害ワースト 10

順位	国	種類	死者数
1	サウジアラビア	熱波	1,301
2	アフガニスタン	厳冬	1,197
3	アメリカ合衆国	熱波	1,006
4	インド	熱波	733
5	パプアニューギニア	地すべり	670
6	チャド	洪水	578
7	パキスタン	熱波	568
8	日本	地震	551
9	ミャンマー	台風	460
10	ニジェール	洪水	396

北海道では、雪害、暴風雨、洪水、竜巻、地震、津波、火山、古くは干ばつも発生しています。雪害による死者が毎年多いのと、大雨による被害が近年増加しているのが特徴です。大きな地震は毎年発生するわけではありませんが、いったん発生すると大きな被害が出ます。

自然は怖い一面がある一方、恩恵をもたらす存在でもあります。火山による温泉、地震や洪水による風光明媚な地形、いわば日本の国土が今ある形なのは、度重なる自然災害の結果と言ってもいいでしょう。しかし自然災害が発生すると、多くの犠牲や損害が生じます。これを少しでも防ぐのが防災工学という学問で、防災に詳しい技術者を育てるのはわれわれ環境都市工学科の使命の一つでもあります。

6. 防災技術

社会インフラは屋外に建設されるものがほとんどですし、長年使われ続けます。そのため、自然災害によって被災することが多々あります。社会インフラが被災するとその影響は広い範囲に及び、しかも長期に渡ります。例えば橋が地震や洪水で壊れてしまうと、災害時に通っていた人の命が失われるという直接的な被害だけでなく、救援や復旧にも遅れが生じます。東日本大震災では重要路線の橋が通れなくなり、広い範囲にわたって多くの重量ダンプカーが迂回したため、被災していなかった地域の人まで影響を受けました。

ここからは、橋を自然災害から守る取り組みについて、地震対策を中心に説明していきます。橋を地震から守る取り組みは昔からあるのですが、画期的に進歩したのは 1995 年阪神・淡路大震災以降です。地震に強い橋を作る方法は大きく分けて 3 種類あります。それは、①耐震、②免震、③制振です。

①耐震

地震の時に構造物に作用する力は、物理学で学ぶ $f = ma$ という式で表されます。構造物の質量 m × 揺れるときの加速度 a （速度の変化率）が大きいほど、構造物には大きな力（慣性力）が作用します。この力に耐えられるようにするのが耐震という考え方です。この場合、揺れるとき

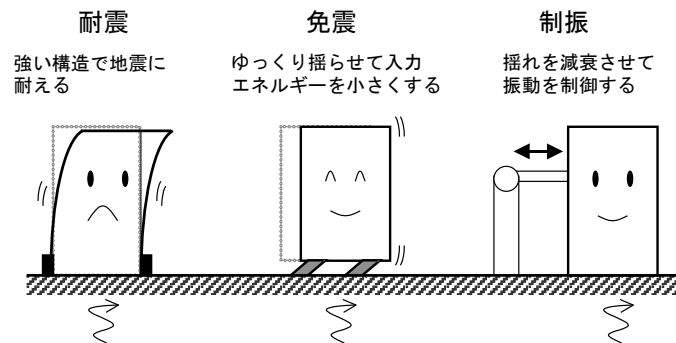
の加速度としてどのぐらい大きな数値を考えるのが難しい問題です。これまで経験した大地震の記録を参考に設計値が決められているのですが、今後それ以上の地震が来ないとは限りません。また、今の設計基準では、どんな地震にも耐えてまったく壊れないというレベルの強さは考えられていません。すごく大きな地震が来た場合、ある程度壊れるけどなるべくすぐに使えるようにというレベルを考えて設計されています。使われる材料や補強方法など年々地震に強くなってきていますし、構造物が壊れても人が死なないことを第一義に考えて設計されています。

②免震

地震で構造物が壊れるのは、地震で発生したエネルギーが構造物に入ってくるからです。地震のときに構造物に入ってくるエネルギーを地震入力エネルギーと言います。 $f = ma$ という基本の式を変形していくと、地震入力エネルギーの大きさは「地震によって地面が揺れるときの加速度」と「地震によって構造物が揺れるときの速度」をかけたものを時間で積分した値になります。ですから、地震が大きくて地面が揺れる加速度が大きければたくさんのエネルギーが入ってくるのは当然なのですが、構造物が揺れる速度が速くても多くのエネルギーが入ってきます。逆に言うと、構造物がゆっくり揺れれば入ってくる地震のエネルギーが小さくなり、構造物が壊れにくくなります。これが免震の原理で、ゴムなどで支えてわざとゆっくり揺れるようにして、地震による破壊から免れることを目指しています。

③制振

地震のとき構造物に入ってきたエネルギーは、構造物が揺れる運動エネルギーや、構造物を壊すエネルギーとして使われることになりますが、他にも揺れに伴う分子間の摩擦などで揺れが小さくなることでも消費されます。この揺れがだんだん小さくなることを減衰と言います。構造物に入ってくる地震入力エネルギーが同じ場合、減衰によって使われるエネルギー量を大きくすることができれば、構造物を壊すことに使われるエネルギーが少なくなるので、構造物の破壊を小さくすることができます。振動を制御して減衰させるということから、この考え方を制振と言います。揺れを減衰させるダンパーと呼ばれる装置を橋に取り付けることで、減衰性能を上げることができます。



7. これからの防災

日本の防災技術は年々進歩してきましたが、依然として多くの犠牲者が出たり多額の損害が発生したりしています。昭和の時代には国土を守る防災だったのが、阪神・淡路大震災を契機として人の命を守る防災へと変化してきました。今では生活を守る防災へと進化しつつありますが、まだ道半ばです。さらには文化まで守る防災を目指す動きもあります。

最近では減災という言葉もよく聞かれるようになってきました。災害を完全に防ぐことができなくても、少しでも被害を減らすことを目指そうということで、これは一般の人には重要な心掛けと言えるでしょう。しかし技術者は減災を目的とするのでは不十分で、防災を目指さなければならないのです。スポーツの世界で、優勝を目指さなければ入賞もできないというのと同じです。特に自然災害は今後どのような規模で発生するかわかってませんし、年々激甚化しています。理想的な防災を目指して技術開発を行っても、結果として減災にしかならないかもしれません。

日本は世界の中でも防災先進国となっていますが、まだ完璧とは言えません。自然災害で泣く人がいなくなる世界を実現するためには、さらなる努力が必要とされています。



高校生の未来を開くキャリア教育

～CeNetworkの活動から見えること～

立命館大学 経営学部
堂本佳乃子・井上美悠

発表日：2025年5月24日

目次

- 01 目的・背景
- 02 活動内容
- 03 アンケート結果
- 04 主な成果と気づき
- 05 今後の展望
- 06 おわりに

団体概要



設立：2024年5月 ・ 林永周ゼミにて発足



メンバー

《代表》堂本佳乃子 《副代表》藤田咲那 《会計》井上美悠

私達自身、高校生の頃将来について悩みを抱えていました。
当団体は、今の高校生に同じような思いを感じさせたくないという思いから発足しました。

CeNetworkの目的

Mission

- 高校生のキャリア選択の幅を広げる
きっかけを作る

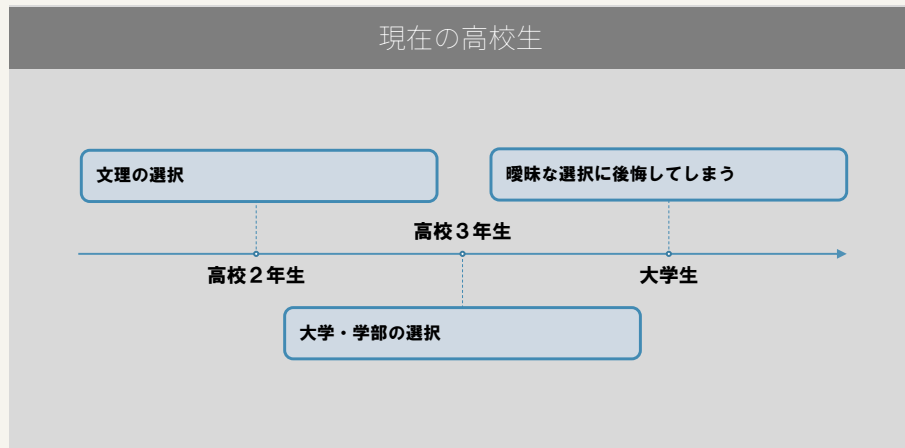
Vision

- 埋もれている高校生人材の発掘
- 学歴で判断されない就活を当たり前

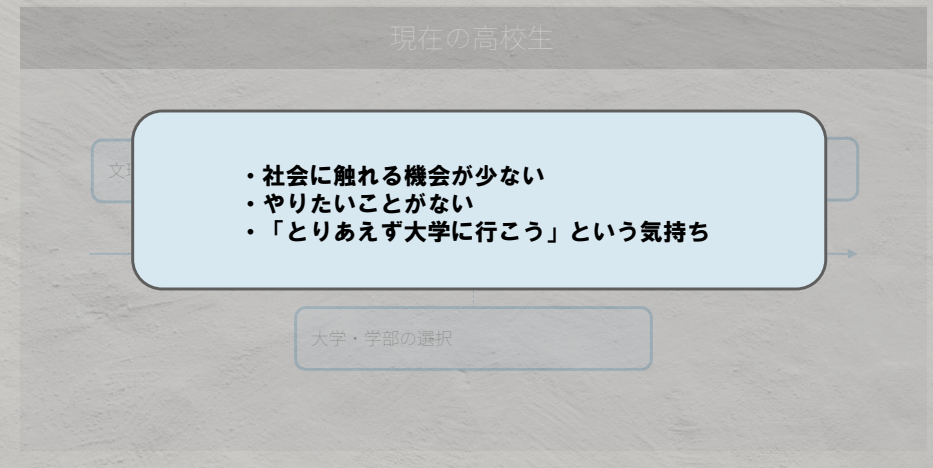
Value

- 高校生が社会に関わる機会を増やす
- 高校生の就労意識の向上

背景（大学進学予定の高校生）

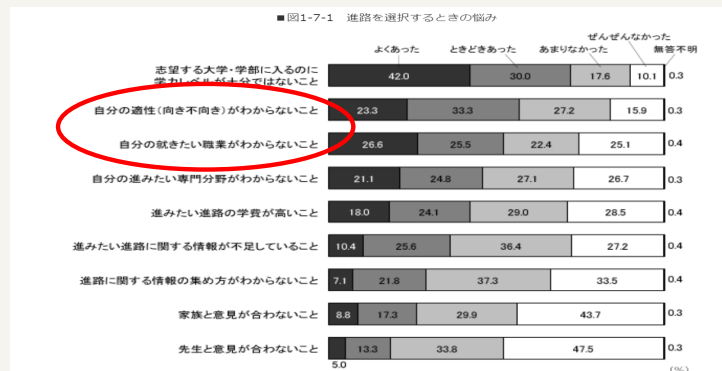


背景（大学進学予定の高校生）



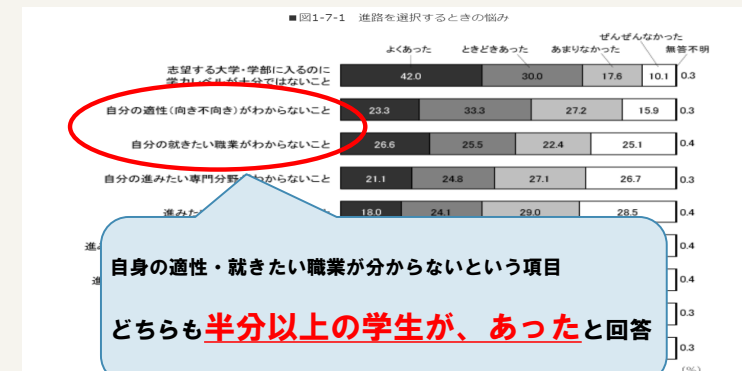
背景（大学進学予定の高校生）

高校生が進路を選択するときの悩み



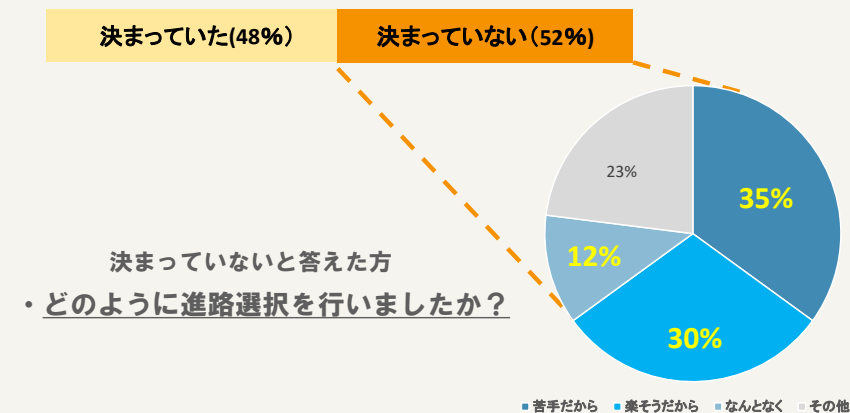
背景（大学進学予定の高校生）

高校生が進路を選択するときの悩み



背景(大学進学予定の高校生)

・高校1・2年生時、将来の夢は決まっていたか？



背景(大学進学予定の高校生)

★★ 高校生インターンに参加したいですか？



◆ **73%**の人が参加したいと答えた

- ・「いろいろな経験をして隠れた自分の向き不向きを見つけたいから」
- ・「楽しそう、進路選択に役立つから」
- ・「実際に目指している夢の仕事を体験してみたいから」

背景(大学進学予定の高校生)



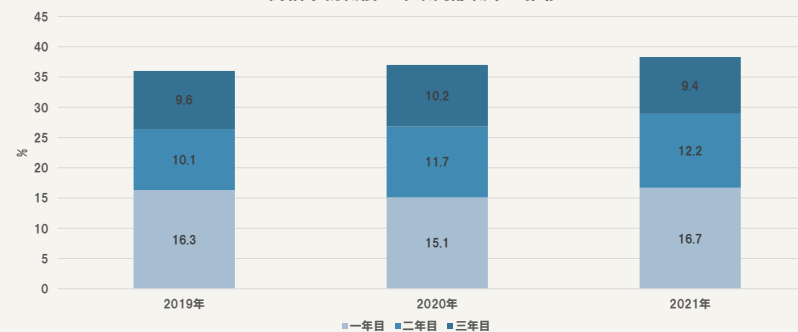
高校生インターンを行うメリット



- ・実際に取り入れたい！と社員から声上がるほど、フレッシュな視点やアイデアが満載だった
- ・オンラインでの実施ということもあり、より多くの方に自社を知って頂ける機会になった

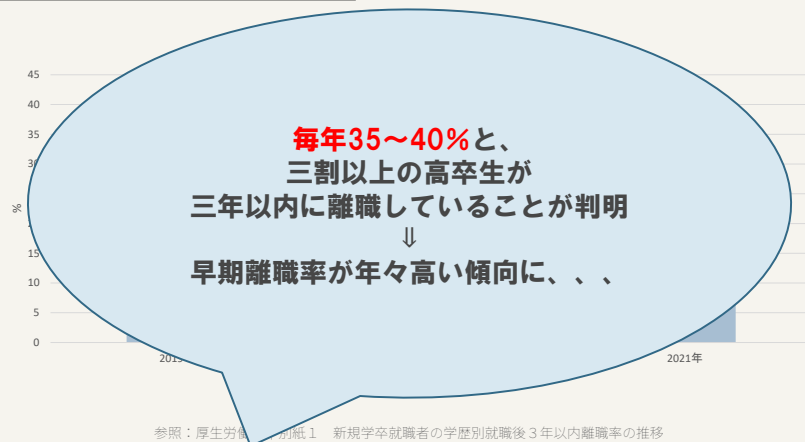
背景（卒業後就職予定の高校生）

高校卒就職後3年以内離職率の推移



参照：厚生労働省 | 別紙1 新規卒就職者の学歴別就職後3年以内離職率の推移

背景（卒業後就職予定の高校生）



背景（卒業後就職予定の高校生）

一早期離職率が高い原因一

★就職活動への事前準備期間が短い

高校三年生のスケジュール

～6月：受験勉強 7月：情報解禁 9月：選考開始

⇒自分を見つめ直す時間、企業研究などが十分ではない！！

★学校斡旋での就職

学校斡旋…学校が受け付けた求人の中から就職先を選び、就職試験を受けること
自己開拓や縁故就職の方法もあるが、学校斡旋が大半を占める

⇒企業の選択肢が少ない！！

★一人一社制

一人の生徒が応募できる企業を一社とする制度（内定を獲得したら原則入社）

⇒複数を比べて検討できない！！



企画趣旨

就活生である学生が志願者となり、
希望の年収や働き方を提示し、自分自身をプレゼンする
↓
プレゼンを受けた複数人の社長が、その場で採用するか選択する
↓
当日に**複数の内定を獲得**することができる



行った活動の概要

企業様との共同企画

★活動内容★

- ・高校生の就活の現状調査（アンケート）
- ・高校生の集客（テレアポ・SNS）
- ・動画作成
- ・高校生のサポート



具体的な活動内容

テレアポ

- ・大阪府、京都府、東京都の二府一都で合計100校以上の高校へ連絡
- ・事前アンケートの調査協力
- ・需要と傾向を説明し、企画提案をする

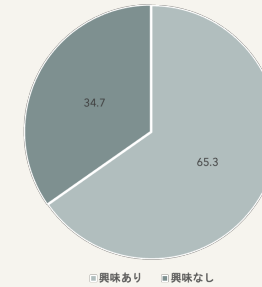
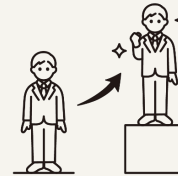


SNS

- ・高校生向けのアカウントを設立
- ・団体活動の報告
- ・イベントの企画発表

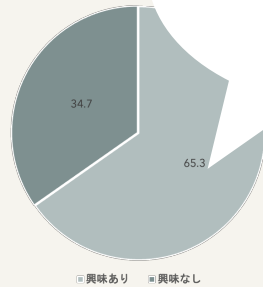
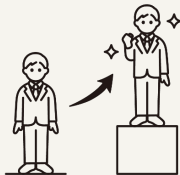
アンケート結果①就職予定の高校生

私たちは今後高校生をターゲットとした就職の機会、選択肢の幅を広げる企画をしようと考えています。そのような機会があれば参加したいと思いますか。



アンケート結果①就職予定の高校生

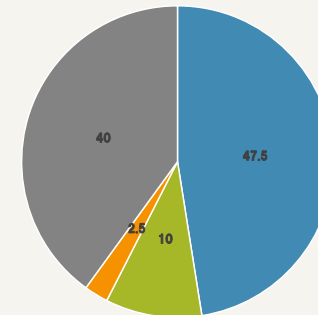
私たちは今後高校生をターゲットとした就職の機会、選択肢の幅を広げる企画をしようと考えています。そのような機会があれば参加したいと思いますか。



約六割の高校生が、企画に興味ありと回答！！

アンケート結果②進学予定の高校生

私たちは今後高校生をターゲットとした就職の機会、選択肢の幅を広げる企画をしようと考えています。そのような機会があれば参加したいと思いますか。



・興味がある ・参加してみたい ・進学予定だが、参加してみたい ・興味なし

進学予定の高校生のうち、
約六割が企画に興味あり
・参加してみたいと回答



高校生インターンへの需要あり！

高校生が見るポイント
仕事内容、
勤務地、年収、...



提案する企画
高校生が条件を提示し
て志願する



・高校生は社会や仕事を知る機会を
求めている
・従来の就活と違う革新的なイベント
⇒企画への需要あり、高校生インターンへの活用



企業様との共同企画

★実施結果



Aさん

- ・通信高校の3年生
- ・就職先が決まるも納得できない

学校から紹介された会社への内定が決まっていたが、実際に職場を見学すると、自身が思い描いていたような環境・業務ではなく、新しい挑戦をしたいと感じていた。この企画に参加し、実際に社長の方々とお話することで、自身のキャリアを想像することができた。また、社長の方々からフィードバックも頂くことができ、非常に良い経験となった。もっと多くの高校生がこのような経験をし、可能性を広げてほしい。



キャリア教育の必要性

高校生以前に、将来について、キャリアについて触れる機会を増やす必要がある

- ✓ 小中学生でのキャリア教育
- ✓ 高校生に向けた業界研究講座
- ✓ 職場体験などの体験学習の充実



高卒就職に対するハードル

大卒の就職活動で手一杯で、高卒向けに着手できない企業や、外部企業を受け入れない高校が多数存在する

- ✓ 高卒導入の提案
- ✓ ノウハウの提供
- ✓ 高卒就職や高校生インターンシップなどの土台作り

今後の展望

01

高卒生向け
就職企画の継続

02

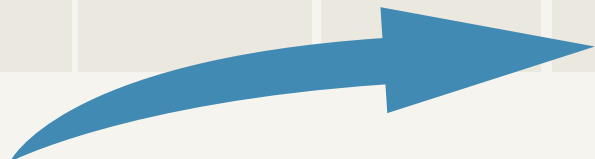
高校生向け
インターンシップ
協力企業・参加生徒
の募集

03

高校生向け
インターンシップの
開催

04

高校生インターン
シップ・就職企画の
効果を社会に周知



おわりに

CeNetwork



CeNetwork

[所在地] 立命館大学大阪いばらきキャンパス

[Mail]cenetwork123@gmail.com

[instagram]@cenetwork_ritsumeit



@CENETWORK_RITSUMEI

Q CeNetwork

おわりに

CeNetwork



ご清聴ありがとうございました。

協賛広告

企業団体広告
株式会社シー・イー・サービス
C T M研究所（城戸寛技術士事務所）

名刺広告	
田中 正稔	千廣 隆章
成田 一義	城戸 寛
藤井 愼一	佐藤 恭美



未来に続く仕事
未来と結ぶ仕事
未来を形にする仕事

株式会社 シー・イー・サービス

当社は、公共建設事業の企画・調査・設計を通して、安全・安心な
社会基盤の整備・維持に貢献できるよう努力しています。

代表取締役会長 田 中 正 稔 (昭和 56 年 経営学部卒)

代表取締役社長 清 水 文 彦

〒062-0032 札幌市豊平区西岡 2 条 8 丁目 5 番 27 号
TEL (011) 855-4440 FAX (011) 854-3231
URL <https://www.ces.co.jp>

広大な北海道における「持続可能なまちづくり」の
主要インフラとしての交通施策、基底となる防災・減災、
そして、これらを支える建設産業を
総合的な技術監理の視点からサポートします。

CTM 研究所

Comprehensive Technical Management research institute

<https://ctm-research.com>

Mail : kido.hiroshi_p.e.jp@icloud.com



城戸寛技術士事務所

代表 城戸 寛

技術士 (総合技術監理部門 / 建設部門)

APEC Engineer (Civil)

被災宅地危険度判定士

北海道防災教育アドバイザー

1 級土木施工管理技士



TANAKA Masatoshi
代表取締役 会長 田 中 正 稔

株式会社 シー・イー・サービス

〒062-0032 札幌市豊平区西岡2条8丁目5-27
代表(011)855-4440 FAX(011)854-3231
<https://www.ces.co.jp/>

db 北海土木工業株式会社



ISO9001
認証登録

代表取締役

千 廣 隆 章

〒002-8025
札幌市北区篠路5条1丁目1番10号
TEL 011-788-3051
FAX 011-788-3061
E-Mail chihiro@hokkaidoboku.co.jp



広大な北海道における「持続可能なまちづくり」の
主要インフラとしての交通施策、基盤となる防災・減災、
そして、これらを支える建設産業を
総合的な技術監理の視点からサポートします。

CTM 研究所 (城戸寛 技術士事務所)

Comprehensive Technical Management research institute

<https://ctm-research.com>

Mail: kido.hiroshi_p.e.jp@icloud.com



代表 城 戸 寛
Kido Hiroshi Pe-CPD

技術士(総合技術監理/建設)
APEC Engineer(Civil)
1級土木施工管理技士

〒001-0902 札幌市北区新琴似2条12丁目16-2
Tel: 080-1891-5907 Fax: 011-763-1844



RITSUMEIKAN

立命館大学 北海道校友会

幹事長 佐藤 恭美

Yasumi Sato

(昭和59年 産業社会学部卒業)



北海道校友会
ホームページ

〒004-0882 札幌市清田区平岡公園東4丁目12番6号

TEL 090-1644-7016

E-mail: yasumi-zeiram1@docomo.ne.jp

成 田 一 義

北海道
室蘭文学芸協会々員
室蘭大学サークル会員
室蘭栄高校文集編集長

〒050-0071
北海道室蘭市高砂町二丁目五番十三号
携帯 090-3111-5545
e-mail: 806k.yosi@gmail.com

立命館大学北海道校友会
文集「北、リッツ」編集長
川柳・和い輪いクラブ会員
(成田清雲)
詩吟・琢心吟和会々員

行政書士
ふじい事務所



特定行政書士

ふじい

しんいち

藤 井 慎 一

FUJII SHINICHI

〒060-0002
札幌市中央区北2条西19丁目1-6-901
携 帯: 090-3111-5545
TEL: 011-676-8745
FAX: 011-615-5275
事務所: cleek1031@aimail.plala.or.jp
携 帯: cleeksf@gmail.com
<http://www.grics.co.jp/office.fujii/>

